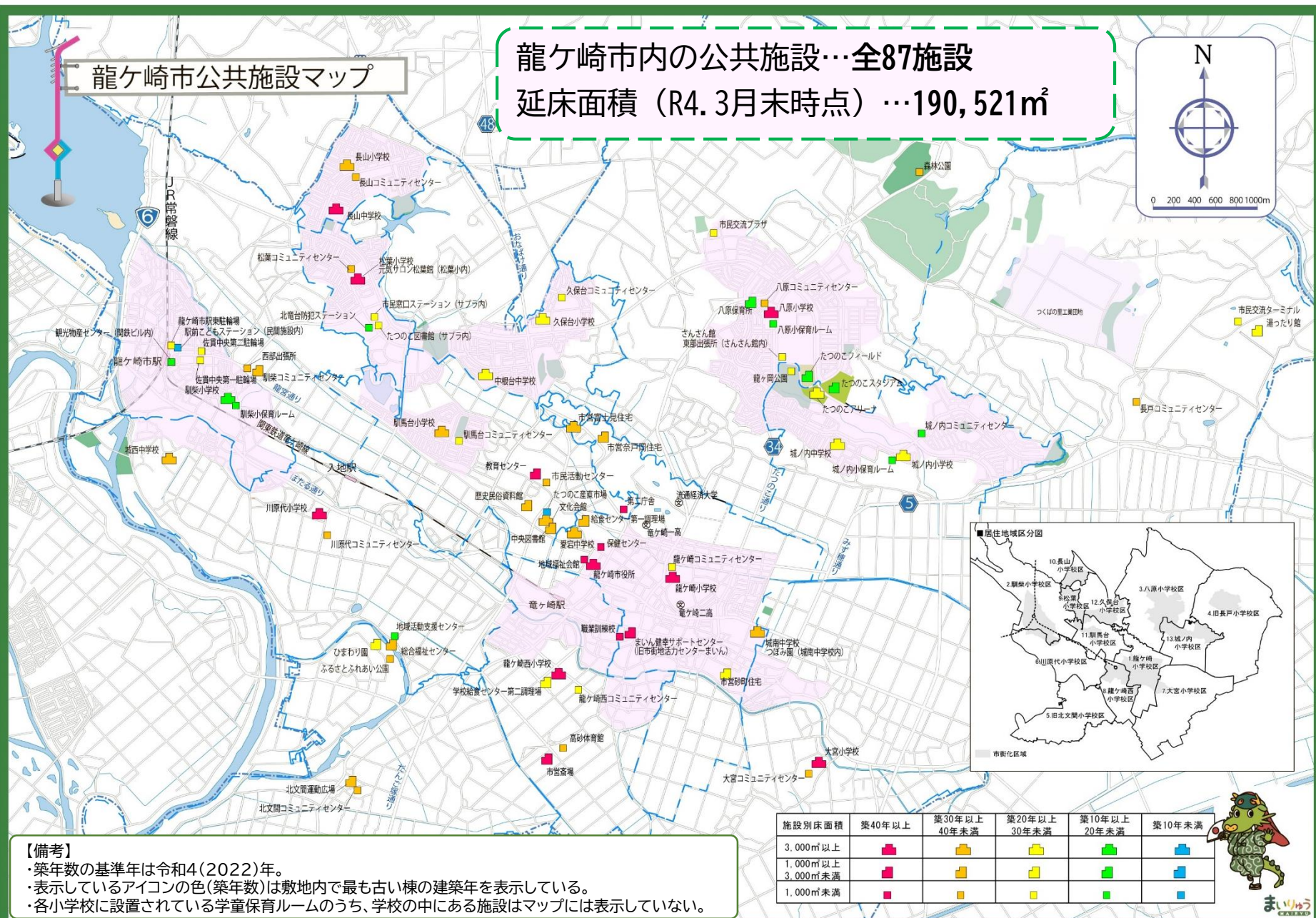


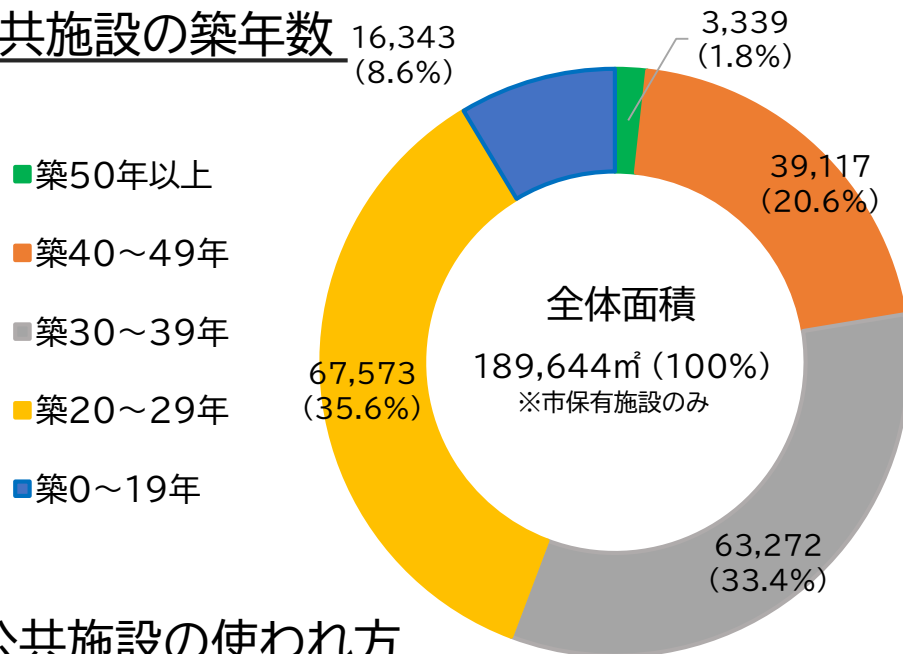
龍ヶ崎市における公共施設の状況

1 龍ヶ崎市内の公共施設



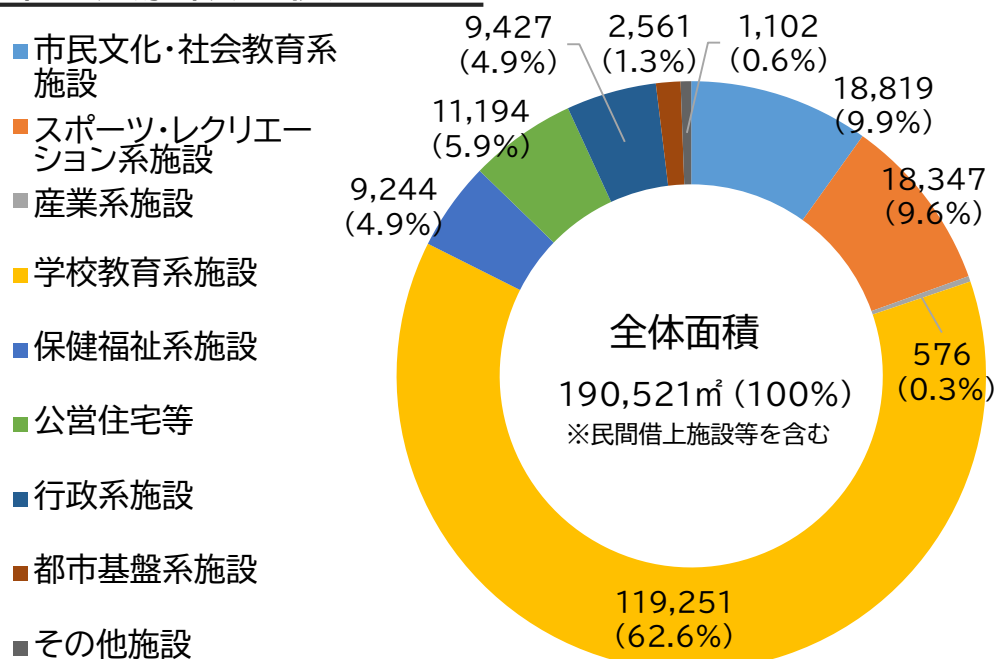
2 公共施設の築年数と使われ方

(1) 公共施設の築年数



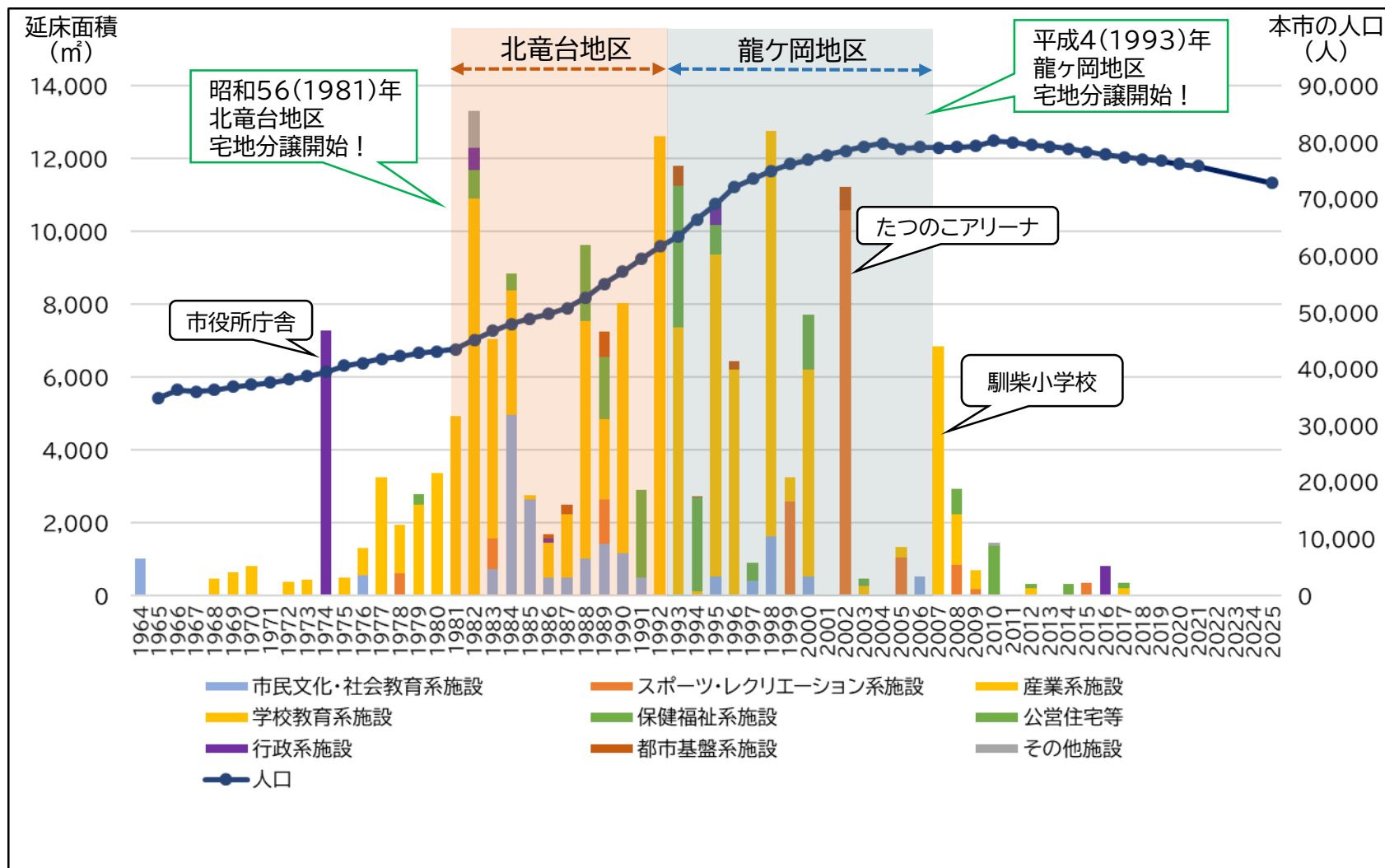
- 築20年から築39年までの建物が
全体の約70%
- 築19年までの比較的築浅の建物は
全体の10%未満
- 市が管理している建物は
すべて新耐震基準に適合
(昭和56年以降の建築又は耐震改修済)
※事実上民間団体が管理している建物を除く

(2) 公共施設の使われ方



- 公共施設のうち、延床面積が最も多いのは
学校教育系施設の約63%
- 次に、図書館や大昭ホール龍ヶ崎などの
市民文化・社会教育系施設
と、ニューライフアリーナ龍ヶ崎などの
スポーツ・レクリエーション系施設
が、**約10%**
- 近年は、行政が建物を保有せず民間施設を活用して行政サービスを提供するなど、
建物の保有に対する考え方が変化

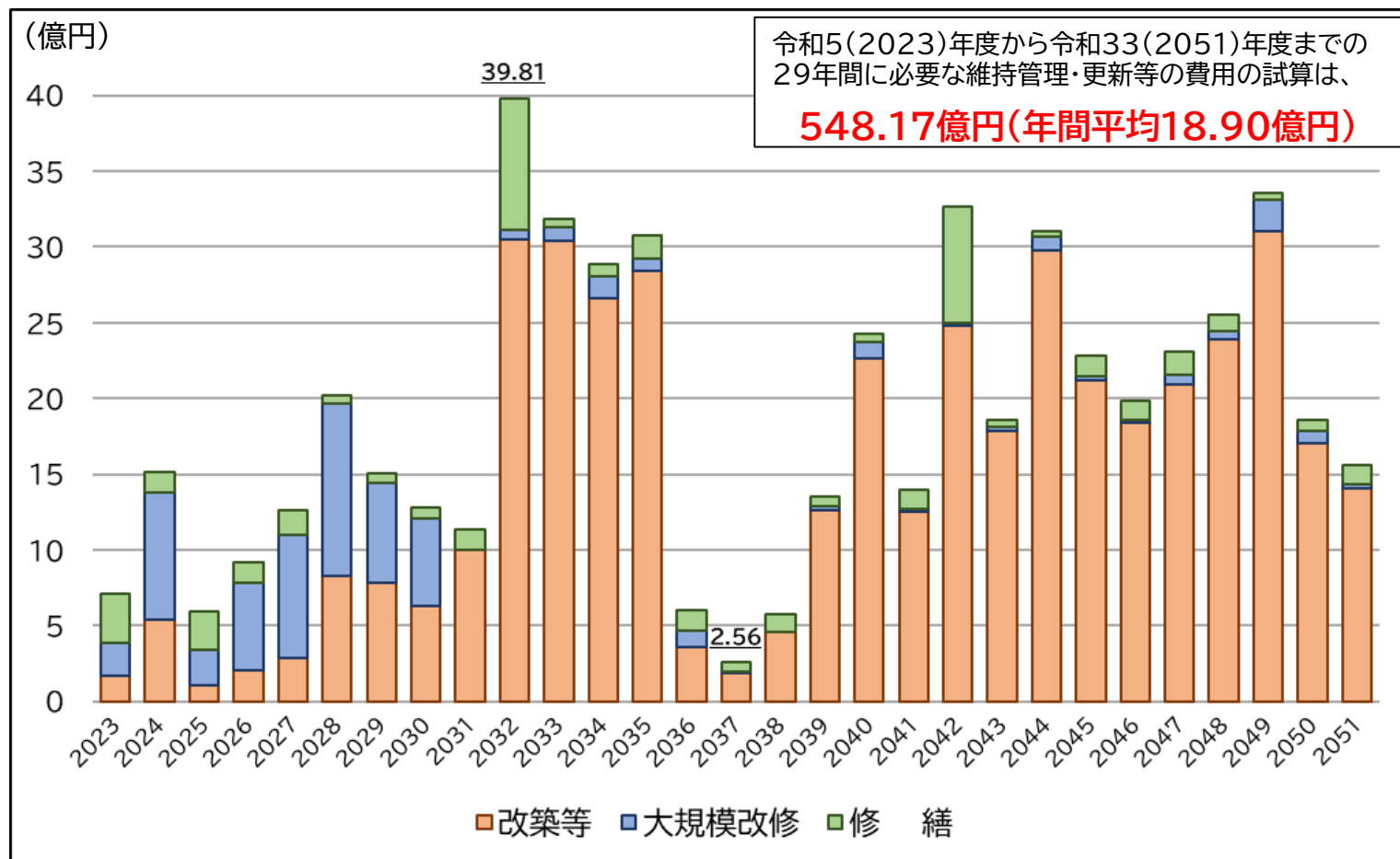
3 公共施設の築年別整備状況



- 施設の多くが、ニュータウン開発や佐貫駅(現:龍ヶ崎駅)周辺開発など、人口増加のタイミングに合わせて、**昭和50年代後半から平成10年代前半に一斉に整備**され、特に、**学校教育系施設が顕著**
- 一斉整備に伴い、**改修・更新時期も同時期**となるため、それらに掛かる費用が**大きな負担**

4 公共施設の維持管理コスト

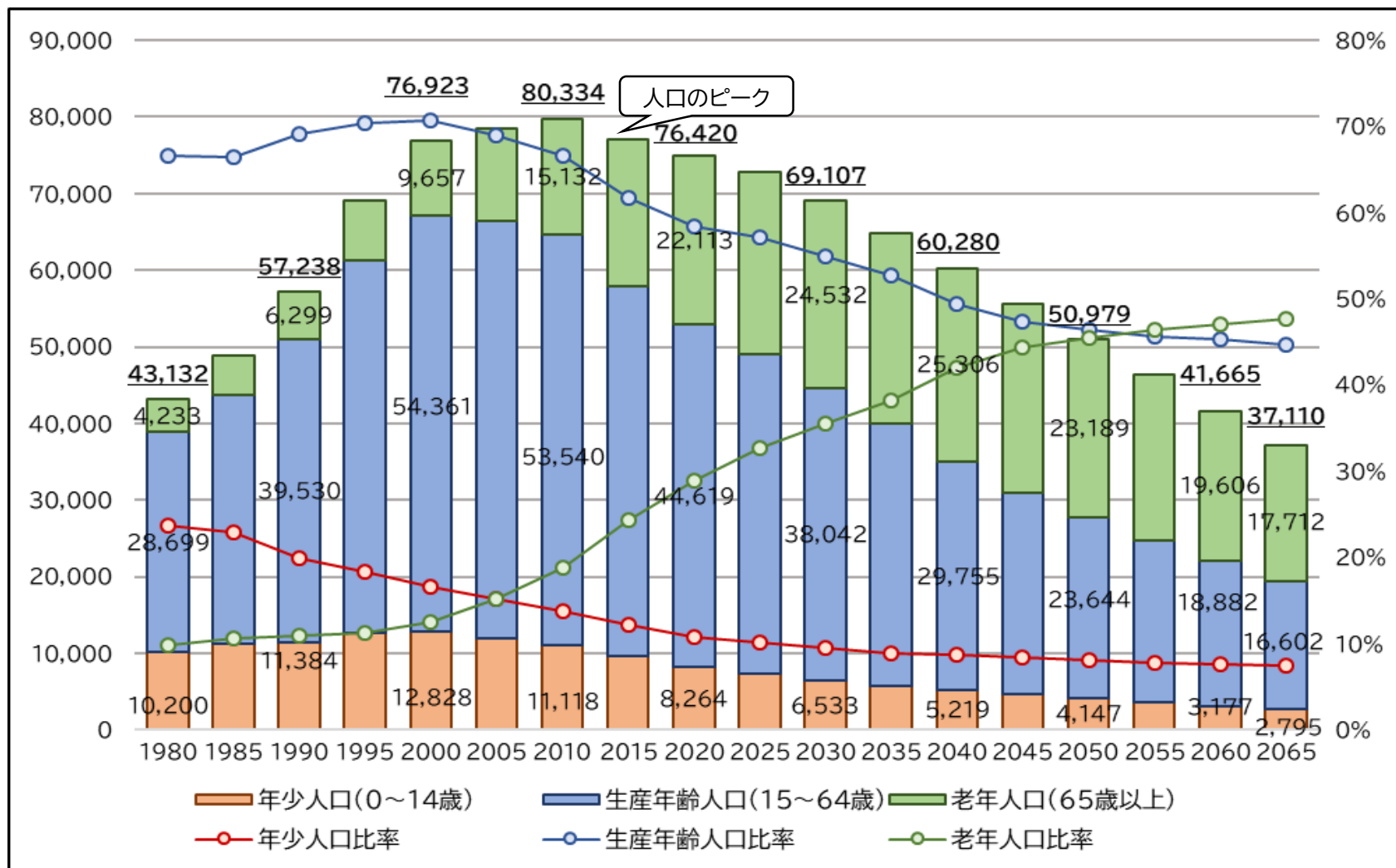
現在保有している建物について、対策を行わずに維持管理・更新等を行っていった場合に想定される費用



- 令和3(2021)年度までの5年間に掛かった公共施設の維持補修費及び投資的経費 **年間平均12.65億円**
試算との比較で、**年間6.25億円不足**

- ほかにも道路などのインフラについて同様の試算をすると、29年間で **291.15億円(年間平均10.04億円)**
- 直近5年間に掛かったインフラの維持補修費及び投資的経費 **年間平均6.62億円** 試算とのと比較で、**年間3.42億円不足**

5 龍ヶ崎市の人口 ～年齢3区分別人口の推移～



- 14歳以下の**年少人口**は**減少傾向**
- 15歳から64歳までの**生産年齢人口**も**減少傾向**
- 65歳以上の**老年人口**は**増加傾向**
- 典型的な**少子高齢化の進展**
- 推計どおりに進んで行くと、令和37年（2055）年までに老年人口が生産年齢人口を上回り、**1人が1人を支える時代に**

6 将来の不安要素

龍ヶ崎市の財政収支見通し(令和4年10月現在)

※小数点第2位以下切捨て (億円)

	R3 決算	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
歳入	313.4	310.3	267.3	265.3	254.5	255.5	240.5	240.1	239.4	237.0	234.7	233.4
歳出	286.0	299.8	258.3	258.9	250.6	257.6	247.0	248.1	248.4	248.0	247.6	247.9
収支差引	27.4	10.5	9.0	6.4	3.9	△2.1	△6.5	△8.0	△9.0	△11.0	△12.9	△14.5
累積収支不足額	0	0	0	0	0	△2.1	△8.6	△16.6	△25.6	△36.6	△49.5	△64.0
一般基金残高	57.6	62.4	63.2	64.0	64.8	65.6	66.4	67.2	68.0	68.8	69.7	70.8

※普通会計ベースによる試算

- 現行制度の下、現在の財政運営を継続した場合、**令和7年度までは黒字を維持**
- 令和14年度末までには、**累積収支不足額と一般基金残高（預貯金）が均衡**
- 一般基金残高（預貯金）が少なくなった上に、今後の社会経済情勢の変化により、歳入の減少や歳出の増加も予想される。そのような事態になると、**財政破たん（破産）**とはならないものの、最悪の場合、財政再建団体になってしまう恐れも…。そうすると、行政サービスなどに制約が掛かり、**市民に大きな負担**となってしまう。

**健全な財政運営が必要
（歳入確保・歳出削減）**

7 公共施設再編成の実現

公共施設を取り巻く状況

- 改修・更新を同時期に迎える
- 維持管理・更新等費用の不足
- 少子高齢化・人口減少の進展
- 厳しい財政環境

求められる対応

- 施設の総量削減など、公共施設の再編成によるコスト削減
- 需要の変化や多様なライフスタイルへの対応など、市民にとって必要な機能の維持・向上

市の考え方

- 無理な借金をせず、公共施設をマネジメントし、「早期決断・早期実行」
- 「拡充」から「縮充」への転換 **縮充の推進**

どう実現していくのか

- 基本方針1「効果的・効率的な維持管理」
- 基本方針2「機能(行政サービス)・事業運営の最適化」
- 基本方針3「施設配置・総量の最適化」 **総量削減30%目標**

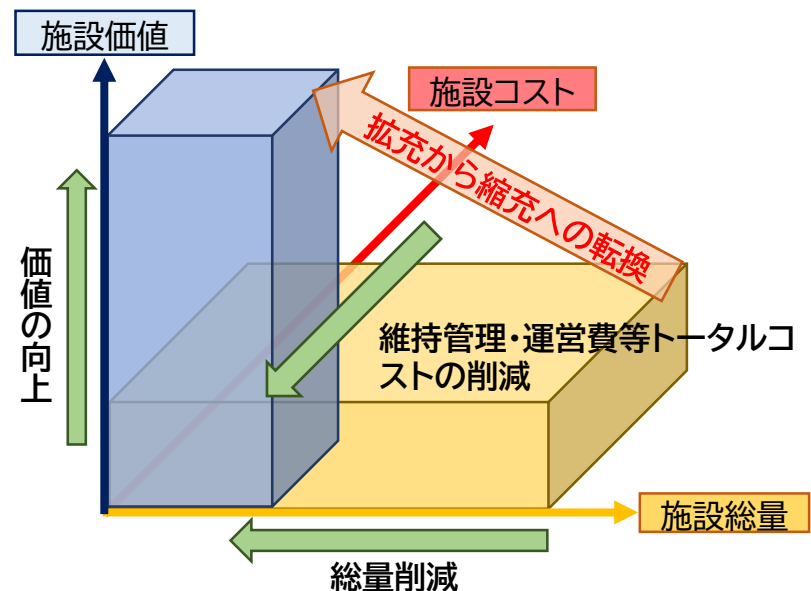
目指すカタチ

全体最適化と持続可能な財政運営の両立



次世代へ持続可能なカタチで繋げたい

「縮充の推進」イメージ



8 公共施設再編成の取組

近年の主な取組(実績)

年度	施設名	取組	取組結果
令和元年度	教育センター	施設の老朽化に伴い、旧馴馬小学校体育館及びプールを解体	面積減 △603㎡
令和2年度～ 令和3年度	旧北文間小学校	旧北文間小学校の体育館、校舎、グラウンドを活用し、敷地全体をスポーツ施設「北文間運動広場」としてリニューアルオープン	面積減 △1,807㎡ (校舎の一部とプール棟を解体)
令和3年度	図書館北竜台分館 (たつこの図書館)	サプラ2階を賃借し、本の返却・受取りやテレワーク用の個人席を設けた図書館を令和3年9月にオープン	民間施設借上
令和3年度	こども発達センターつぼみ園	将来的な支援拡充も視野に、児童発達支援・放課後等デイサービス事業所として新たな施設を整備	リースにより整備

今後の主な取組(取組中を含む)

年度	事業名称	取組(見込み)	取組結果(見込み)
令和2年度～ 令和6年度	新長戸コミュニティセンターの整備	施設の老朽化や駐車場不足等の問題を解消するため、旧長戸小学校校舎を解体し、新たにコミュニティセンターを建設。令和6年度中のオープンを予定	面積減 △2,300㎡
令和元年度～ 令和5年度	新学校給食センターの整備	第一・第二調理場を一元化し、新たな給食センターを建設することにより、衛生機能強化による食の安全性向上と効率的な運営を行う。令和5年9月オープン予定	面積増 700㎡
令和3年度～ 令和6年度	新保健福祉施設の整備	保健センター機能・子育て支援・介護予防機能などを備えた施設を建設。令和7年度中のオープンを予定	面積増 2,000㎡
令和4年度～ 令和9年度	義務教育学校の整備	既存校舎等の長寿命化や新規校舎等の整備を行い、長山中学校を受入れ校とした義務教育学校を整備。令和9年度中の開校を予定	面積減 △6,700㎡
令和4年度～	旧城南中学校の跡地活用	令和4年4月の廃校に伴い、敷地・建物の利活用について官民間わずに検討し、地域課題を解決	面積減 △9,800㎡

お知らせ

市ホームページで、公共施設に関する計画などの情報提供を行っています。

ご興味がある方は、こちらの二次元コードからご覧ください。

